

Gunma Innovation Award 2024 Opening Special Future

群馬銀行取組 深井 彰彦氏



ふかい・あきひこ 1960年、高崎市生まれ。84年、群馬銀行に入行。92年に米国・スタンフォード大でMBAを取得。2019年から現職。

群馬銀行グループは、2021年に「パーパス」を定めた。このパーパスは、当行グループがお客さまや地域などのステークホルダーから、何を期待され、その期待にどう貢献していくかを定義したものである。当行は金融業として、最も重要な役割である金

融仲介、つまり、お金の貸し手と借り手をつないできた。近年は、後継者不足や人材の確保といった課題の解決、安心な老後を過ごすための資産形成など、期待される役割が増え、「つなぐ」ことがますます重要になっていく。

具体的には、次世代につながる事業承継や相続の支援、企業と人材をつなぐ人材紹介、企業と企業をつなぐビジネスマッチング、資産を未来につなぐ資産運用の提案など多岐にわたる。また、このパーパスは、当行グループの成長戦略を語る上でのベースにもなっている。

ポイントは社会やお客さまの課題を解決する「社会的価値」と当行が持続的に収益を上げていく「経済的価値」の両立を目指していることだ。

どちらの視点が欠けても持続的な成長につながらない。これは、スタートアップにも通じる重要なポイントだ。

歴史を振り返っても、今のビジネスが現状のまま、未来永劫続くことはないだろうし、今は存在しないビジネスが数十年後に主流になっている可能性もある。地域経済の持続的な発展を図るには、新たなビジネスの創出が不可欠だ。社会環境の変化とデジタル技術の急速な進化は、新たなビ

ジネスチャンスをもたらしており、特に若い人には失敗を恐れずに果敢に挑戦してほしいと思う。重要なのは夢中になったり取り組むこと。そうすれば、自分の潜在能力を最大限引き出すことができる。私自身、自分にはハードルが高いと感じたことに夢中になって取り組んだことが

ある。その結果、自分でも驚くほどの力を発揮し克服することができた。ぜひ、自分が実現したいことに夢中になって取り組んでほしい。結果はおのずとついてくるはずだ。



オープンハウスグループ社長 荒井 正昭氏



あらいまさあき 1965年、旧飯塚本町(現太田市)生まれ。97年に不動産業のオープンハウスを設立した。2013年に東証1部上場。

上場10年の節目を迎えた昨年、売上高1兆円を達成した。次の目標は業界ナンバーワン。人手不足が続く中で採用を強化し、顧客満足度のより一層の向上を図りたい。

日頃から国内市場で勝負しなければいけないと思っているが、人口ほとんど減っていく。これからは海外投資を加速することは避けられないだろう。

海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

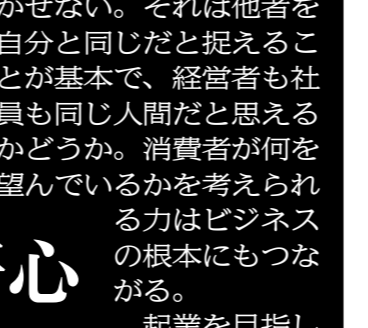
れる。しかし、これらは難しいことでもある。誰も自分の考えが間違っているとは思いたくないので、都合の良い検証に陥りがちだからだ。

特に起業を目指す人ほど自負があり、事実を事

が多いのも事実だ。事業を継続していくには、経営者の人間性も欠かせない。それは他者を自分と同じだと捉えることが基本で、経営者も社員も同じ人間だと思えるかどうか。消費者が何を望んでいるかを考えられる力はビジネスの根本にもつながる。

起業を目指す人は、一刻も早く行動してほしい。計画は計画に過ぎないし、行動を起こさないと何も始まりません。発表したものを必ず実現し、事業をスケールアップさせてほしい。

シズホールディングスCEO 田中 仁氏



たなか・ひとし 1963年、前橋市生まれ。88年にジェイアイエヌ(現シズホールディングス)を設立。2014年、田中仁財団を設立。

2001年にアイウエオ事業に参入し20年以上がたった現在を「第二創業期」と位置付けている。当初は目新しかったビジネスモデルも、時間とともに一般化してしまっただけの厳しさは違うが、お客さまが買いたくはない。第二創業期は、グローバル化を加速させてい

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ

る。海外比率は6、7%だが、中長期的には半分にまで伸ばしたい。米国にいる約200人のスタッフのレベルアップ、企業の合併・買収(M&A)も必要だ。

出身地の太田市を拠点とするプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」のオーナーになり、母校のあった桐生市に寄付し、みなかみ町で事業を展開している。グループとして地域貢献活動に力を入れるのは、生まれ育った群馬が良くなってほしいという思いからだ。

ビジネスにはPDCAが重要だと言われるが、GIAのステージではまだP(計画)の段階に過ぎない。D(実行)が何よりも大切だが、会社が伸びていくかを左右するのはC(評価)で、計画を検証・修正するスピードが問わ



上毛新聞社主催・田中仁財団共催の群馬イノベーションアワード(GIA)は、新時代を切り開く起業家やそのマインドを抱いた人材を発掘・支援するプロジェクト。毎年、中高生からスタートアップ(新興企業)経営者まで数百人が、社会・

産業構造を変える可能性を秘めたビジネスプランを提案している。プロジェクトを支える実行委員や過去の大会のファイナリストらに、起業に向けたメッセージやGIAに参加する意義などを語ってもらった。

来たれ！挑戦者

ファイナリストは今

2023年「奨励賞」・ビジネスプラン部門高校生以下の部 ぐんま国際アカデミー 鈴木聡真さん・杏さん

そのために安定して支援できる体制をつくらんと提案したのが、支援とビジネスをつなげるアイデアだ。今年6月、館林で開いた難民支援を啓発するイベントにコラボde支援を取り入れた。農家と協力して野菜と果物を用意、どちらも完売したという。

GIAでは同世代の学生から企業トップまで、たくさんの人と出会い、大きな刺激を受けた。出場を機にメガネチェーンJINSからサンングラスの提供を受け、ロビンギヤへの支援に結び

つけることもできた。「分からないことは自分で調べるだけでなく、人から教えてもらうことが大切だと学んだ」と聡真さん。杏さんは「夢を信じ続けて良かった」と振り返る。自分たちのアイデアが、専門家の助言によって磨かれ、具体的なビジネス案に生まれ変わる過程を経験した。それが自信となり、より活動的になった。「ぜひ、チャレンジしてほしい」と力を込める。

JINSから提供されたサンングラスを贈る鈴木聡真さんと杏さん(写真左)館林で開いたイベント

2022年「大賞」・イノベーション部門 エリー社長 梶栗 隆弘さん

蚕のさなぎを新たな食資源と位置付け、肉などの代替品に加工しているエリー。地域と連携して原料の蚕を確保する「エリー式養蚕業」を提案した。不良環境に強く、栽培も簡単なキャッサバイモを農家に生産してもらうとともに、その葉を食べる特殊な蚕を空き家などで育ててもらい、できた繭を会社が買い取る仕組みだ。

養蚕テクノロジーを活用して、パウダーやベスト状の食品開発に注力していたが、さらなる付加価値を目指し、最近では高機能繊維「エリートシルク」の開発に軸足を移している。

高機能繊維開発に軸足

温度・湿度調整機能も優れている。キャッサバイモの葉を、エリートシルクを生み出す蚕の餌として利用するため、サステナブルで生産効率も良い。完成度はまだ80%ほどだが、品質や量産体制を整えると同時に市場の検証を行い、100%にすることが目標だ。

GIAに出場したことで信頼度が増し、企業間のネットワークづくりに役立つ

ているという。プレゼンテーションは、事業が大きくなれば必ず求められるスキル。高校生にとっては貴重な経験。積極的に参加してみたい」と話す。

起業して活動が続けるには、お金や周りの協力が絶対的に必要になる。まずは出場して、名前や取り組みを知ってもらうことが重要。出場者同士のつながりが生まれることから「出るだけでも出て背中らいいのではないかと背中を押す

4部門で、9月16日まで受け付けている。昨年から小中学生の応募も可能となった。

9月中旬に1次書類審査を行い、10月26日の2次プレゼンテーション審査で、ファイナリストを決定。11月6日のブラッシュアップ研修を経て、12月14日前橋市の日本トーターグリーンロード前橋で開かれるファナルステージ

群馬イノベーションアワードは「ジャパニズドリームを、群馬から」をスローガンに掲げ、2013年にスタートした起業家の発掘や支援を目指すプロジェクトだ。

例年500件近いエントリーがあり、起業を志す人や、新規事業を目指すスタートアップ経営者らに挑戦の場として定着している。これまでの累計エントリー数は3560件

小中学生もエントリー可 9月16日まで受け付け

で、うち68%は高校生。若い世代の創造力や問題解決能力の向上に貢献している。受賞者の15%が起業、10%が起業準備中、10%が起業検討中。3人に1人がプランの社会実装に向け活動している。

今年は7月16日にエントリー受け付けを開始。「ビジネスプラン(高校生以下、大学生・専門学校生、一般の3部門)」「ベンチャー」の計

発表してもらおう。

入賞者特典はGIA起業家と共に海外研修ツアーに参加できるほか、来年度の群馬イノベーションスクール(GIS)の参加資格を得られる。ファイナリスト特典として、アイデアの社会実装支援・起業相談を用意している。

問い合わせは事務局(☎027・254・9955)へ。

わかばやし/たかひさ 1984年、東京都生まれ。東京大学大学院経済学研究科経営専攻修士課程修了。同経営専攻博士課程単位取得退学。高崎経済大学地域政策学部講師を経て、2017年より現職。専門は、経営学、組織論、リーダーシップ、教育工学。

なごみ/あまのり 1985年、東京都生まれ。東京大学大学院経済学研究科経営専攻修士課程修了。同経営専攻博士課程単位取得退学。高崎経済大学地域政策学部講師を経て、2017年より現職。専門は、経営学、組織論、リーダーシップ、教育工学。

なごみ/あまのり 1985年、東京都生まれ。東京大学大学院経済学研究科経営専攻修士課程修了。同経営専攻博士課程単位取得退学。高崎経済大学地域政策学部講師を経て、2017年より現職。専門は、経営学、組織論、リーダーシップ、教育工学。

Gunma Innovation Award 2024 起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード2024」に協賛しています。(順不同)